

# これからの家族のカタチ

県立三木高校 3 年 多田有沙

## はじめに

私たちが当たり前前に受け止めている、今の家族の形。

しかし、受動的な態度のままではよいのだろうか。

私は、前世代・現在・次世代の家族形態について考察することで、これからの家族の在り方について考えることにした。

## 第一章 家族制度

### (1) 前世代の家族制度・三世代同居

#### ① 三世代同居の定義

戦前から昭和初期に多くみられたのは“三世代同居”である。この論文では「老親、子供夫婦とその子供が世帯を共にする家族」を三世代同居の定義とする。

#### ② 戦前から昭和初期の風潮

この家族形態が多数あった時代は“男尊女卑”や“家制度”という風潮が強かった。夫が外に出て仕事に行き、妻は家で家事や育児に従事する、また、長男は家を相続して存続させる、といったことが当たり前であった。しかし現在は、そのような風潮も弱くなっているようである。

### (2) 現在の家族制度・核家族

#### ① 核家族の定義

現在は、三世代同居も少なからずあるものの、主流は“核家族”である。この論文では「Ⅰ夫婦とその子女、Ⅱ夫婦のみ、Ⅲ父親または母親とその未婚の子女、のいずれかから成る家族」を核家族の定義とする

#### ② 増加原因

核家族は、戦後から徐々に増加傾向にある。その原因は社会構造の変化や思想の変化にあると考えられる。具体的に、原因について挙げてみる。

### I 転勤の増加

高度経済成長期以降、企業が拡大した。そのことにより、日本全国に支店・営業所を持ち、転勤が増加した。

しかし、転勤の際に、親を含めての引っ越しをせず、単独または妻子のみと生活するようになったから。

### II 産業構造の変化

戦後の高度成長によって、第一次産業（農業）が減少、第二次産業（製造業）・第三次産業（サービス業）の就労者が増加した。そのことにより、土地に縛られずに自由になったから。

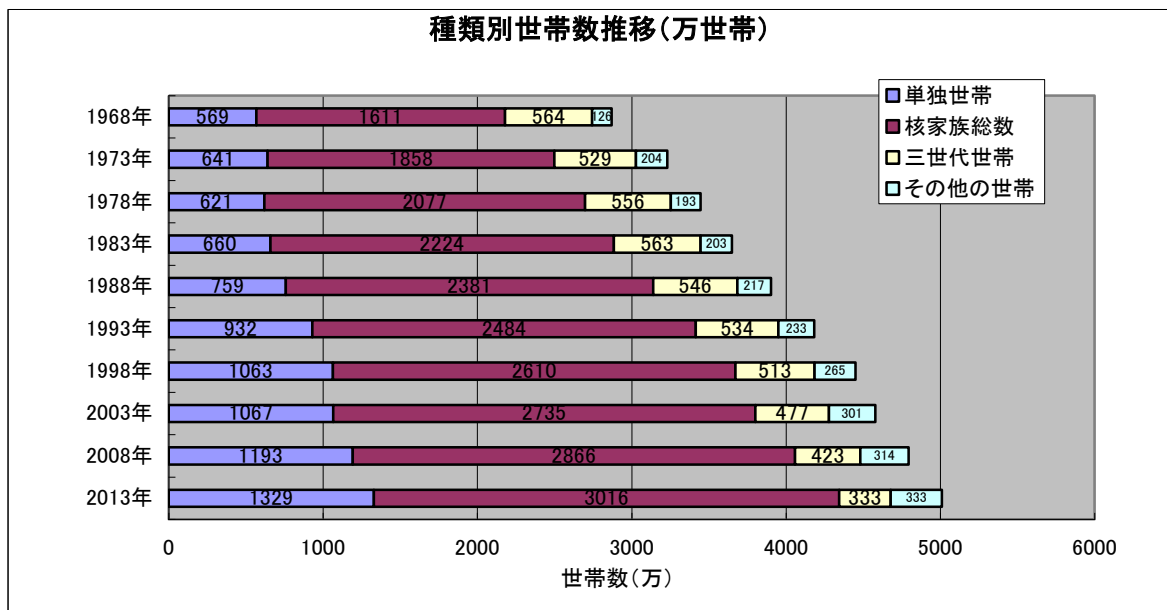
### III 民法の改正

戦後に民法が大規模に改正された。その中に家制度も含まれており、相続は“兄弟平等”と変更された。そのため、長男が家を継ぐという慣例が無くなりつつあるから。

### IV プライバシーの重視

個人の時間を大切にしたいという思想の変化が起きた。しかし、日本の家は狭いため、プライバシーを守ることが難しい状況にあるから。

## 第二章 数字で見る家族形態の変遷



近年問題視されている通り、統計上においても単独世帯・核家族が増加している。対して、三世帯同居は減少している。

### 第三章 高校生たちの声

これからの未来を担う高校生たちは、家族について、どのような意見を持っているのか。そのことを明白にするために、香川県立三木高等学校の生徒350人に、アンケート調査を行った。

(注. あくまでも高校生視点である)

Q 1. あなたの現在の家族形態は？

- ① 核家族
- ② 三世帯同居

Q 1	人数 (人)	%
① 核家族	250	73.5%
② 三世帯同居	90	26.5%
合計	340	100.0%

Q 2. 「核家族」の利点は何か。(1つのみ回答)

- ① 祖父母の干渉を受けにくい
- ② 祖父母と両親の間に衝突が起きにくい
- ③ 昔の慣習に囚われずに、新たな文化を作ることが可能
- ④ その他

Q 2	核家族 (人)	%	複合家 族(人)	%	合計	%
①	77	30.8%	26	28.9%	103	30.3%
②	98	39.2%	43	47.8%	141	41.5%
③	59	23.6%	17	18.9%	76	22.4%
④	16	6.4%	4	4.4%	20	5.9%
	250	100.0%	90	100.0%	340	100.0%

特に注目すべき点は、実際に経験している三世代同居者が核家族である者より、②の割合が大きいことである。三世代同居では衝突が起きやすい事実があるといえる。

Q 3. 「核家族」の欠点は何か。(1つのみ回答)

- ① (両親が共働きの場合) 留守がちになり、子供の監視ができにくくなる
- ② 祖父母との交流が少なくなることから、伝統文化(昔の遊び、郷土料理)が継承されなくなる
- ③ 高齢者との接点が無いため、親切にすることができない。  
(公共の乗り物で席を譲るなど)
- ④ その他

Q 3	核家族 (人)	%	複合家 族(人)	%	合計	%
①	148	59.2%	58	64.4%	206	60.6%
②	77	30.8%	21	23.3%	98	28.8%
③	17	6.8%	4	4.4%	21	6.2%
④	8	3.2%	7	7.8%	15	4.4%
	250	100.0%	90	100.0%	340	100.0%

どちらの家族形態でも、子供を家に置いたまま仕事に行くことに最も不安を感じている。

Q 4. 「三世代同居」の利点は何か。(1つのみ回答)

- ① 両親が共働きでも、祖父母に子守をしてもらうことができる
- ② 祖父母から伝統文化を継承することができる
- ③ 家賃や家事を折半してもらえるので、負担が少ない

④ その他

Q 4	核家族 (人)	%	複合家 族(人)	%	合計	%
①	162	64.8%	63	70.0%	225	66.2%
②	38	15.2%	8	8.9%	46	13.5%
③	45	18.0%	15	16.7%	60	17.6%
④	5	2.0%	4	4.4%	9	2.6%
	250	100.0%	90	100.0%	340	100.0%

三世帯同居の方が①の割合が高いことから、祖父母に世話をしてもらった経験があるといえる。

Q 5. 「三世代同居」の欠点は何か。(1つのみ回答)

- ① プライバシーが無い
- ② 祖父母の干渉を受ける
- ③ 昔の慣習に囚われ、新たな文化を創り出すことができない
- ④ その他

Q 5	核家族 (人)	%	複合家 族(人)	%	合計	%
①	44	17.6%	13	14.4%	57	16.8%
②	145	58.0%	54	60.0%	199	58.5%
③	43	17.2%	14	15.6%	57	16.8%
④	18	7.2%	9	10.0%	27	7.9%
	250	100.0%	90	100.0%	340	100.0%

「子守をしてもらえる」ことが三世代同居をする最大の理由である。しかし、祖父母の干渉にストレスを感じていることも事実である。

Q 6. あなたの理想の家族形態は？

- ① 核家族
- ② 三世代同居

Q 6	核家族 (人)	%	複合家 族(人)	%	合計	%
-----	------------	---	-------------	---	----	---

① 核家族	210	84.0%	38	42.2%	248	72.9%
② 三世代同居	40	16.0%	52	57.8%	92	27.1%
	250	100%	90	100%	340	100%

特に注目すべき点は、②の割合が高いのが三世代同居者であるということである。核家族と比較すると、割合が3倍である。

◎ つまり、実際に育ってきた家族形態が、将来に影響をもたらす可能性が高いと考えられる。

しかし、三世代同居者が、将来、核家族になりたいと考えている割合も約4割ある。そのことも念頭に置いておかなければならない。

#### 第四章 政府の取り組み

政府は、三世代同居を推進している。「介護の社会保障費の抑制」「待機児童問題の解決」等のために同居を推進しているようである。

支援の例として、三世代で居住するためのリフォーム費用の一部を所得税から差し引く仕組みを導入している。

#### 第五章 現状改善する政策の提言

私は、政府の考えには反対である。

核家族の欠点を補う政策を提案することで、その根拠を述べていく。

##### ① 育児環境

- ・ 緊急の用事ができた際に、預かってくれる人がいない  
→ 365日24時間営業の保育所・病児保育室を増加させる。
- ・ 育児について相談できる人がおらず、不安  
→ 地域のコミュニティセンターで、育児相談会を開く。  
同年代、育児の先輩と話すことで、悩み軽減。  
→ 子育て相談が可能な Website の充実。

##### ② 文化

- ・ 高齢者と接する機会の減少により、伝統文化（遊び、郷土料理）が継承されない
  - 教育機関（児童園・小学校など）と高齢者施設を併設する。その利点は4つある。
    - I 児童が、高齢者と接する機会を持つことで、文化を学ぶことが可能。
    - II 児童が、高齢者との接し方を学べる。
    - III 高齢者が、生きがいを発見できる。
    - IV 高齢者・児童とも、実際に交流することで、お互いのことを理解できる。つまり、騒音によるトラブルなどが軽減できる。

### ③ 人付き合い

- ・ 人間関係が希薄になる
  - コミュニティセンターや教育機関などで、積極的に行事を開催す。そこに、地域の住民・高齢者を招く。
    - そうすることで、子供も保護者も、世代間交流が出来る。
    - また、相互理解を深めることも可能。
  - スポーツ少年団、習い事によって友好関係が築ける。

◎ つまり核家族でも、支援次第で快適に生活していくことは可能である。

かえって、三世代同居になると「ダブルケア」（※1）「孫疲れ」（※2）により、家庭での負担が大きくなると危惧する。

### おわりに

この研究で、政府が三世代同居推進派だということを初めて知った。

近い将来、公助ではなく「自助・共助の時代」が到来すると予測される。重要なことは、国や自治体が、三世代同居のデメリットを思案し、適切な支援を行っていくことだと考える。

また、私たちも双方の家族形態のメリット・デメリットについて考え、自分の意見を持つことが必要である。

次回、機会があれば、実際に教育機関と高齢者施設が併設している所を取材し、効果がみられるのか調査したい。

## 注釈

(※1) 晩婚化等で高齢出産となり、親の看護と子育てを同時にしなければならないこと。

(※2) 晩婚・高齢出産により、親も高齢化。それにも関わらず、従来通りの育児を要求される。そのため祖父母が、肉体的にも精神的にも疲弊してしまうこと。

## 引用

・ 核家族が増加した理由

[http://www.caa.go.jp/seikatsu/shingikai2/kako/spc07/houkoku\\_a/spc07-houkoku\\_a-1\\_I\\_1\\_3.html](http://www.caa.go.jp/seikatsu/shingikai2/kako/spc07/houkoku_a/spc07-houkoku_a-1_I_1_3.html)

・ 種類別世帯数遷移

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa15/index.html>

・ ダブルケア

<http://double-care.com/message>

・ 孫疲れ

<http://spotlightmedia.jp/article/224326366524541990>